



全国都市緑化かわさきフェアの開催を契機とした「みどりでつながるコミュニティ」の創造

みどりの共創プロジェクト

実施団体 midori-ba (百暮、NPO法人あかね、かわさき生活クラブ、ワイエムビー、Den、ホリプロ、ピークスタジオ、野菜だいすきファーム、AEI)

みどりの共創プロジェクトは「みどりでつながる、暮らしやすく、住みたいまち」の実現をめざすプロジェクト。「コミュニティ×みどり」をテーマに、公園など場所を決めてみどりを育てる体験ができる「グロウガーデン」、トラックなどを使用して場所を決めずにみどりに触れる機会を創出する「トラックガーデン」などの取組を市内各所で展開しました。100周年を契機に立ち上がった団体「midori-ba」が2025年度以降も、みどりと出会う場やきっかけを提供し、人とみどり、まちをつなぐ取組を継続していきます。



グロウガーデンの取組

農体験



土づくり・植付を行った野菜の収穫・調理を通じた交流 (橘公園)



サツマイモの植え付け・やきいも体験 (日進町こども文化センター・大師公園)



雑草の堆肥化講習 (福祉交流農園VOVO)

自然体験



どんぐり
ジャムづくり
ワークショップ
(Nocuchi-Lab.)



公園にある素材でクリスマスリースづくり (橘公園)

みどりのオープン スペース体験



夜の公園でのアウト
ドア体験会 (橘公園)



みどりあふれる憩いの場での
イベント (SUPERNOVA
KAWASAKI)

トラックガーデンの取組

● ZŌEN2024

日時: 2024年4月13日[土]・20日[土]
会場: em/PARK (溝口駅近くの民間駐車場) 屋上
みどりをベースに映像、詩、音楽を絡めたみどりの魅力を感じる空間を演出し、普段みどりに関わる機会がない層にみどりと出会うきっかけを提供しました。



「映像×詩×音楽」の共演による
植物にまつわるインスタレーション

● midori-ba Fes

日時: 2024年11月16日[土] 会場: 溝口駅前キラリデッキ
日時: 2025年3月22日[土]・23日[日] 会場: 富士見公園

キラリデッキと緑化フェア会場で社会実験イベントを実施し、緑化意識の醸成やmidori-baの取組を紹介しました。



緑化したステージ
での音楽ライブ



midori-baメンバーがプロジェクトへの
思いを語ったトークセッション

● こどもたちとみどりを結ぶ ennouフォーラム

日時: 2025年3月15日[土]
会場: 総合自治会館

川崎の「みどり」を子どもたちが「知って・ふれて・食べて・元気になって」育ったまちを好きになってもらいたいという思いからフォーラムを開催。子どもと農のつながりに関する基調講演や、学校給食などをテーマにしたトークセッションを行いました。



「midori-ba」HP

これからの川崎の100年を一緒につくっていきましょう!

「Enjoy Greening -こころとまちにみどりを-」を掲げて活動する「midori-ba」では一緒にmidori-baを盛り上げてくれる仲間を募集しています。詳しくはHPをご覧ください。また、LINEでは随時、最新情報をお知らせしています。



LINEイベント情報

提案型事業

「あたらしい川崎」を生み出していく多様で多彩なアクションの提案を広く募集する「提案型事業」を実施し、柔軟なアイデアや発想から記念事業を盛り上げ、地域課題の解決、地域の魅力や価値の向上を図る取組を進めました。



武蔵小杉でママや家族が安心して楽しめる場所・機会を作りたい

まんなかフェス2024

日時: 2024年9月28日[土]・29日[日]

実施団体 一般社団法人まんなかフェス

「ママと子どもたちが一緒に楽しめる遊び場、ママたちが息抜きできる場」を目指しながら、緑化フェアを意識した『花と緑』をテーマとして、市内で活躍するハンドメイドショップや飲食店を集めたマルシェ、音楽・ダンスステージを開催しました。さらに、市制100周年記念のメモリアルな機会を皆さんと一緒に祝う、武蔵小杉駅周辺で過去最大級の市民参加型の音楽パレードにチャレンジし、参加者、来場者全員にとって、忘れ得ない体験、そして川崎への自信、愛着を持てる機会を創出しました。



道路止にたくさんの
ブースが出展



大人気の楽器作り
ワークショップ

ステージ
パフォーマンスも!

PICK UP!

風とリズムのパレード♪

楽器製作ワークショップに参加した市民約80人に加え、ダンスや音楽を奏でるメンバー総勢200名で約20分間のパレードを実施。多くの参加者と観覧者で市制100周年を祝いました。



手作り楽器を
持って
パレード♪

【多様性】を表現する色合いと、
【花とみどり】をモチーフにした衣
装でパレードを盛り上げました。



主催者からひと言



平松あずさん

市民一体となったパレードで市制100周年をお祝いすることができました!出演者も応援する沿道の皆さんも笑顔がいっぱいでした。応援ありがとうございました。



世界こども地域合衆国サミット

子どもの力で川崎の未来を変えるプロジェクト

実施団体 田園調布学園大学ほか

子どもたちが地域の産業や文化に触れる機会を提供することで、子どもたちの主体性とリーダーシップを育成し、持続可能な社会の実現を目指す取組です。共創こども会議等を通じた準備を経て、11月にこどものまち仕事体験イベント「ミニたまゆり」と「世界こども地域合衆国サミット」が、田園調布学園大学キャンパスで開催され、多くの子どもたちでにぎわいました。参加者からは、「楽しかった」「来年も参加したい」などの声が多く聞かれました。

● こどものまち仕事体験イベント ミニたまゆり

日時: 2024年11月16日[土]・17日[日]

子どもたちがさまざまな仕事を体験しながら、働くことやお金の大切さ、社会のしくみを楽しみながら学びました。



● 世界こども地域合衆国サミット

日時: 2024年11月17日[日]

ドイツやウクライナの子どもや全国の「こどものまち」の代表を招待し、川崎市の子どもへの取組やそれぞれの地域の取組を紹介しました。



● メタバース×リアル謎解きツアー

メタバース: 2024年7月27日[土]~12月31日[火]
リアル会場: 2024年7月27日[土]~ 8月31日[土]
(富士見公園、等々力緑地、生田緑地等)

川崎市の企業や文化等にちなんだ「謎解きツアー」をメタバース×リアルで開催しました。





Colors, Future! Actions

をこの先も

～市制100周年記念事業のレガシー～

市制100周年の1年間、市民、企業、団体、川崎市のオール川崎による様々な取組を「Colors, Future! Actions」と総称し、多様で多彩なアクションを次々と生み出してきました。こうした100周年の取組を通じて生まれた多彩な事業、市民・企業・団体同士のつながり、川崎への愛着と誇りを活かして、100周年記念事業後も「多様性」をまちの誇りとして、100周年記念事業で生み出された成果を継続・発展させて「あたらしい川崎」を生み出していくチャレンジを進めていきます。

01
100周年記念事業を契機として生まれた多彩な事業

02
自らまちに関わり、まちを盛り上げる市民・企業・団体等とのつながり

03
川崎を知って、関わって、好きになり、向上したシビックプライド

継続・発展

あたらしい川崎

様々な人たちが川崎に「愛着」と「誇り」を持ち、つながりあいながら未来にチャレンジするまち

KAWASAKI
100+1

新しいはじまりを、さあ、いっしょに。

Colors, Future!
いっしょって、未来。
川崎市



©Sakata Yoshihiro (THINGS.)



市制100周年のフィナーレにドラえもんたちが等々力にやってきた!

市制100周年のフィナーレに、100周年の取組を未来へつなぎ、これからの100年を担う子どもたちの川崎への愛着と誇りを感じてもらうイベント「未来っていいな☆まつり ～夢を集めて川崎100周年～」を開催しました。ドラえもんたちと一緒に歩いたパレードや藤子・F・不二雄キャラクターのスタンプラリー、未来を感じる体験型ブースなど、2日間で訪れた約32,000人の来場者は、数多くのイベントで盛り上がった市制100周年のフィナーレを飾るイベントを楽しみました。

2025年
3月29日[土]・
30日[日]
等々力緑地
催し物広場

子どもたちに楽しい思い出を残した「未来っていいな☆ドラえもんパレード」

ドラえもん、のび太君、しずかちゃんと一緒に、ドラえもんオリジナルバルーンを手に持った子どもたちが、パレードを行いました。パレードの演奏は橘中学校、大西学園高等学校の吹奏楽部の皆さん、川崎ブレイブサンダースのチアダンススクール「IRIS GIRLS」のメンバーもパレードを盛り上げ、未来を担う子どもたちにとっての楽しい100周年の記憶となりました。



ドラえもんの「スタンプラリー」や「フォトスポット」、川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアムの出張展示「ポケットミュージアム」

等々力緑地で同時開催中の緑化フェア会場をめぐる「ドラえもんスタンプラリー」のほか、名言パネルと一緒に設置した「ドラえもんフォトスポット」では、100周年の記憶を笑顔で写真におさめる姿が見られました。また、川崎が誇る「川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアム」の展示をコンパクトに再現した「ポケットミュージアム」が、この日のために等々力へ出張展示しました。



市内企業等の協力による「未来を体感するブース出展」

「自分で描いた絵が3Dになって100周年の特別コースを飛び回る飛行機レース」、「ドローンの操縦体験」、「最先端AIモーションキャプチャの技術体験」、「川崎市が全国に先駆けて納車した自動運転レベル4の自動運転バスの展示」など、市内企業等の協力による未来型のブースを子どもたちが体感しました。



川崎の新たな未来のために―。垣根を越えて掴んだ「共創」



市制100周年 実行委員会共同事務局 座談会

それぞれの色を掛け合わせることで新たな価値を生み出し、さまざまな企画に挑戦し100周年事業を形にしていく共同事務局には、民間企業から4人のコアメンバーが加わり、市職員とともに垣根を超えて「共創」にチャレンジしました。打ち合わせを重ねてきた思い出のオフィス[Fujitsu Uvance Kawasaki Tower]で汗をかいた2年間を振り返りました。

走りながらのスタートに 呼応したメンバー

― 民間人材の共同事務局コアメンバーを募集した理由は。

長瀬 市役所内で、官民共同の共同事務局を立ち上げることとなり、今後のプランも決まっていなかった状況で、まずはメンバー募集から入りました。本来業務をしながら携わってくれる人がいるのかと心配していましたが、複数の応募があってホッとしたのを覚えています。当初は、「みんなで100周年を祝おう」「新しい価値をつくろう」という漠然とした言葉が先行していた中で、どのような方針で進めていくか、試行錯誤しながら進めていきました。

荻本 たしかに当初は具体的な方針は決まっていなかった(笑)。100周年を盛り上げるだけではなく、100周年以降もレガシーを残していくというミッションもあり、それには、行政が苦手とするブランニングやプロデュースとい

う面で力になってくれるメンバーが必要でした。振り返ってみて最高のメンバーだったと思いますし、それぞれの個性や能力が生かされたプロジェクトになったと感じています。

― コアメンバーに参加したきっかけと当時の思いを教えてください。

池田 私は富士通で、まちをフィールドとした社会課題解決型の事業創造に取り組んでいて、今回の「次の100年につながる文化を作る」という新しい当たり前をつくるコンセプトに共感し、参加を決めました。打ち合わせ初日にメンバーの皆さんと今後の話をした際に、皆さんのものすごい熱量を感じ、このプロジェクトに貢献したいという気持ちがさらに強くなったのを覚えています。

須之部 私はホリプロに勤めていますが、ライブハウス「SUPERNOVA KAWASAKI」の開設を機に川崎市と深く関わることになり、今後運営していく上で、まちを知る必要があると思い、参加を決意しました。また、個人的には学生時代、国の官僚に興味があって、行政の仕事にも

関わってみたいという思いもありました。

内山 私の勤めていた味の素(株)川崎事業所総務・企画グループが進めている、ステークホルダー・行政・地域の皆さんと連携し、新しい価値を作ろうという取組と、100周年がテーマに掲げる「共創」とが合致し、絶好の機会だと思ったのが参加した理由です。最初、企画書を拝見した時は、抽象的な内容でし、募集チラシに若いモデルが多く写っていたので、正直不安でした(笑)。でも、実際に皆さんとお会いしてみると親しみやすい方ばかりだったので安心しました。

鈴木 私も味の素に勤めていて、内山さんから担当を引き継ぐ形で2024年6月からメンバーに加わりました。関係者が多く、名刺交換の時も圧倒されて覚えられませんでした(笑)。社内異動を機に担当となったのですが、最初に資料を見た時には規模感の大きさに驚き、自分がこのプロジェクトに貢献できるのか正直不安もありました。

長瀬 皆さんの当初の想いははじめて聞く話ばかりで新鮮です。



(左から)須之部さん、池田さん、内山さん

議論から生まれた さまざまな「共創」

― 活動した2年間で得たものや実感したことは。

須之部 普段は会社員として会社の利益のために行動するわけですが、少し会社から離れた位置で活動して、色々な立場の人と関わったのは大きかったですね。最近「副業」が話題になっていますが、こういう経験は無形資産というか、個人の資質向上にもつながるでしょうし、とても良い取組に参加させていただけたと感じています。

内山 行政が中心となりつつも、企業や団体、学校など様々な立場の人が掛け合わせると、これほど大きな企画が出来るんだというのを感じました。市役所前の大通りを歩行者天国にしたり、スタジアムでのライブ中にブルーインパルスが上空を飛行したり。2日間にわたり実施した「Colors,Future!Summit」も試行錯誤しながら

ら企画しましたが、本当に多くの関係者の力があって成り立ったと実感しています。

長瀬 「Colors,Future!Summit」は、まずはこのメンバーでどのような事業を実施すべきかアイデアブレストをしたのがスタートでしたね。他都市の事例も参考にしながら、事業内容や事業スキームを2か月間かけて少しずつ検討し具体化していきました。その後、2023年3月の総会で実施を公表してから、毎週のように議論を交わしながらプロジェクトメンバーも募集して、なんと5月の製作委員会の立ち上げを迎えられた時は本当に嬉しかったです。

― 取組を進めてきた中で感じた川崎の魅力は。

池田 いくつかありますが、何よりも100周年事業に関わる職員の皆さんの「このまちを良くしよう」「盛り上げよう」という前向きな姿勢は非常に印象的です。行政職員の皆様は保守的なイメージがありましたが、逆にこの事業では引っ張っていただいたと思います。企画に関

「関わって」得られた 経験は「無形の資産」

― 活動してきた中で、エピソードや裏話などがあれば教えてください。

池田 このプロジェクトに取り組み始めた当初、民間と行政の事業の進め方の違いにとまどいがありました。民間の場合、解決すべき課題が明確で、それらにビジネスとして意思決定する人もある程度決まっている印象なのですが、行政の場合は、市民やそれらの代表となる議員さんなど、意識すべきステークホルダーが多様なんです。なので、たまに本質ではない議論をしているような違和感があって、少し雰囲気悪くさせてしまいました…。結果的には自身の成長にもつながりましたし、良い議論もできましたが、今となっては少し反省しています(笑)。

荻本 きちんと議論できたのはよかったですね。協賛金の目標額が1億円だったのですが、どんな特典があれば資金が集まるのかであったり、令和7年度以降に自走していける団体の仕組みづくりであったり、毎回、終了時刻を超えるのが当たり前でした(笑)。その後も、作成する資料や意思決定プロセスなどで、行政と民間のスピードの違い、文化の違いから調整には本当に苦労しましたが、目指していた共創の仕組みもつくれましたし、今となっては良い経験です。

― 皆さんの人生においてどんな2年間でしたか。

池田 会社組織の中では自分の力で会社を動かすというのは決して簡単ではないんですが、まちづくりの場合は市民の「やりたい」が街にちょっとした変化を与え、大きなムーブメントにもなるんだと感じましたね。私自身も自分の

住むまちで少し一歩を踏み出し、まちを変える取組にチャレンジしたいと感じたこの2年間はとても新鮮でした！

須之部 「2年間ずっと素振りをしているつもりだったのに、気がつけば打席に立っていた」みたいな感覚ですね(笑)。手探りで取り組み始めたことが、全て本番になったなと思っています。色々やらせてもらって、自分の得意分野があっても、そこから半歩だけずれてみることで、かなり視野が広がることに改めて気付かされました。こういう経験を積み重ねて、次に生かしていくことが大事だと思います。

内山 この2年間を振り返って思うのは、会社から離れた中で全く違う立場の人と出会うことで新しい学びがあったということです。そんな中で、一つの目的に向かっていくことができたのは、このメンバーだったからかもしれません。どうすれば企画を成立させられるかを、みんなで協力しながらスピード感を持って進めていて、私は横で見させてもらったような感じで…。今後もまちづくりやイベント開催に絡める機会があるといいなと思いますし、せっかく巡り合ったこのメンバーにはこの先何かあったときには相談させていただきたいなとも思っています。

鈴木 私も共同事務局での活動を通じて、視野が広がったというか、視座も高くなったなという感じがしています。今まで会社員として営業を担当してきた中では経験できなかった出来事がたくさん目の前で起こっていて、様々な気付きがありました。行政と民間が一緒になった組織で仕事をさせていただいたことで、民間企業とは

違った職員の方に加えて、インフルエンサーだったり、アーティストだったり、プレイキンだったり、いろんな魅力が溢れているのが川崎なんだと改めて感じましたね。北から南まで、本当に様々なカラーがあって、それらに触れさせてもらいました。

鈴木 私は川崎市内の高校に通っていたんですが、当時は川崎に対してやんちゃというか危険なイメージを持っていました。でも今回この事業に携わって、新しく生まれ変わっていく川崎の魅力を感じました。街並みもそうですが、文化やスポーツ、100周年のイベントを通じて新たな取組も生まれまして、可能性のあるまちだと思いましたね。私自身、正直これまで行政の事業にあまり関心を持っていなかったのですが、反省しつつ、もっと地域に目を向けて、視野を広げていきたいと思いました。



違った視点や考え方を学べ、とても勉強になりました。今後はこうした機会があれば、自分の色を出しながら続けていきたいなと思っています。

長瀬 「100周年を盛り上げる」というあいまいな目標に向かって、普段それぞれ異なる仕事をしているコアメンバーの皆さんと一緒に、具体的に何をどのようにしていくのか、毎週打ち合わせをしてきました。おかげさまで、皆さんと一緒に悩みながら、一步一步、前に進んでいくことができましたし、なんとか100周年記念事業を形にすることができたと思います。もちろん、さまざまな関係者の御協力あってこそですが、共創で新しい価値を生むということって、振り返ってみるとこういうことなのかなとも思いました。1人ではできないことでも、力を合わせれば実現できるんだと改めて感じた機会でした。

荻本 須之部さんが話していたように、今回はみんなが半歩を踏み出せて、それぞれの得意分野を掛け合わせることができました。まさにこれが共創だったのかなと。自分も大きな経験ができた2年間でした。これからの100年も川崎で一緒にいきましょう！

座談会メンバー	
須之部 為師さん	(株式会社ホリプロ 川崎プロジェクトチーム副部長)
池田 圭佑さん	(富士通株式会社 Japanリージョン ソリューショントランスフォーメーション本部 クロスインダストリービジネス推進室 シニアマネージャー)
内山 剛志さん	(味の素株式会社 グループお客様相談センター 応対統括グループ) ※～2024年6月共同事務局コアメンバー
鈴木 航介さん	(味の素株式会社 川崎事業所 総務・企画グループ) ※2024年7月～共同事務局コアメンバー
長瀬 優木さん	(川崎市 総務企画局 シティプロモーション推進室 市制100周年記念事業調整担当)
荻本 直輝さん	(川崎市 総務企画局 シティプロモーション推進室 市制100周年記念事業調整担当)



(左から)鈴木さん、長瀬さん、荻本さん

みどりで、つなげる。みんなが、つながる。



国内最大級の花と緑の祭典

第41回 全国都市緑化かわさきフェア

秋開催 2024年10月19日[土]～11月17日[日] (30日間)

春開催 2025年3月22日[土]～4月13日[日] (23日間)

コア会場：富士見公園、等々力緑地、生田緑地



かわさきフェアのシンボルマークに込めた思い

みどりをツールとして、人と人、人と暮らしがつながっていく様子を区の数である7枚の葉で表現し、市民の活動が広がっていくよう葉を重ねて、ロゴ全体を花に見立てました。

市制100周年の象徴的事業「第41回全国都市緑化かわさきフェア」は、それぞれが異なる魅力を持つ富士見公園、等々力緑地、生田緑地の3つの総合公園を中心に、全国で初めてとなる秋と春の2期開催にチャレンジしました。都市の中の新しいみどりの価値を発信し、暮らしの中にみどりを取り入れるきっかけや気づきとみどりを通じた多くのつながりを生み出した「かわさきフェア」には、秋・春合わせて160万人を超える方が訪れ、季節ごと、会場ごとの花やみどり、趣向を凝らしたイベントをお楽しみいただきました。

オープニングセレモニー・総合開会式

日時：2024年10月19日[土] | 会場：富士見公園・カルッツかわさき

秋晴れの青い空が広がった2024年10月19日に「かわさきフェア」は開会しました。富士見公園で行なわれたオープニングセレモニーでは、テープカットに続いてキッズチャリディング、一輪車パフォーマンス、カラーガード隊のマーチングなどのアトラクションがオープニングを彩り、カルッツかわさきに場所を移して行われた「総合開会式」では、開会宣言や3つのコア会場間をつなぐ中継を行いました。



総合開会式

日時：2025年4月13日[日] | 会場：カルッツかわさき

かわさきフェアのフィナーレとなる2025年4月13日に開催した総合開会式では、100年先の未来へ誓う「みどりのKAWASAKI宣言」、市立高津高校書道部による「繋翔」と記した大きな書道作品の制作パフォーマンスなどが行なわれました。最後に次回のフェア開催地である岐阜県へとフェア旗が引き継がれ、秋・春の2期53日間にわたり開催した「かわさきフェア」が幕を閉じました。

令和6年度全国都市緑化祭

日時：2024年11月1日[金]
会場：カルッツかわさき・富士見公園

都市緑化の推進を図り、緑豊かな潤いのあるまちづくりを目的に、「かわさきフェア」の中心的行事として「令和6年度全国都市緑化祭」を開催しました。佳子内親王殿下の御臨席を賜り、カルッツかわさきでの記念式典や富士見公園での記念植樹が行なわれました。



かわさきフェアを通じて生み出した協働の取組

「かわさきフェア」を契機に、市民や団体などが集い、新たな出会いやつながりを生み出す場づくり・仕組みづくりが進むようフェアの開会前から市民協働の取組を進めてきました。ここでは「フェアボランティアの活動」と「花づくり・花かざり」の取組を紹介します。

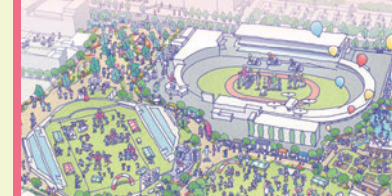
フェアボランティアの活動

3つのコア会場での植物育成・花壇の管理、来場者の写真撮影や会場案内などフェアの運営には多くのボランティアが活躍。ボランティアの皆さんからは「たくさんの来場者の笑顔に触れることができた」「きれいなお花に囲まれて参加してよかった」などの声がありました。また、会場運営に携わるだけでなくボランティア同士の交流会などにも多くの方が参加し、新しいつながりづくりの機会にもなりました。

富士見公園

「多様性」
× みどり

かわさきフェアを代表する富士見公園会場では、リニューアルオープンした新しい公園で、次の100年に向けて川崎がめざすみどりのまちづくりを実現する技術や考え方を発信しました。



等々力緑地

「体験・体感」
× みどり

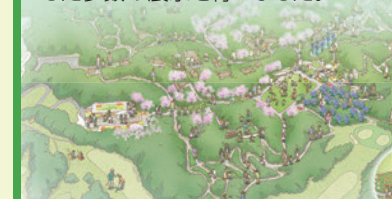
広々としたみどりの中でアクティビティやスポーツを体験できる等々力緑地会場では、これまでにないスタイルで、みどりを自由に楽しむウェルビーイングなライフスタイルを提案しました。



生田緑地

「歴史・文化」
× みどり

既存緑地の自然美がベースのみどり豊かな生田緑地会場では、文化・歴史・アートで紡ぐ「本物のみどり」の価値を発信、緑地内の植物を活用した多数の展示を行いました。



花づくり・花かざり

市立小・中・特別支援学校 全170校が「花づくり・花かざり」に取り組みました。フェア前に学校で育てたお花をフェア会場の花壇をはじめ、学校・公園・地域の協働花壇に飾りました。





「かわさき飛躍祭」のブース

「かわさき市民祭り」のブース

川中島小学校(川崎区)6年生は、「総合的な学習の時間」の一環で、2023年度から「繋~Approach・Action・Achieve 川中島!~」というテーマを掲げ、市制100周年を盛り上げました。

「川崎を知って、関わって、好きになってもらう」。そのために自分たちに何ができるだろうとアイデアを出し合い、試行錯誤しながらゲームやアート制作を行い、川崎の魅力を知ってもらう「祝川崎100周年祭in川中島小」を2024年3月に開催。その動きは加速して、6月には市制100周年記念事業「かわさき飛躍祭」にもブースを出店しました。誰もが楽しめるようにと、みんなで考えた「川崎クイズ」ではスポーツ・食べ物・場所・人物の4ジャンルの問題を出題。参加者には手作りのキーホルダーやしおりなどのグッズをプレゼントしました。12月の「かわさき市民祭り」では、100周年の集大成として内容をブラッシュアップして4ブースを出店し、参加者を大いに楽しませました。

児童たちは「川崎のことを調べるほど、川崎がもっと好きになった」と口を揃えます。「これからの100年に向けて、川崎を支える人になる」という熱意を持って、一大プロジェクトを成し遂げたメンバーら。みんなが大人になったころ、川崎はどんなまちになっているのでしょうか。それぞれの思いが掛け合わさって、より良いまちへと前進している姿が目に見えます。

次の100年、「川崎支える人」に
(川中島小学校6年生)



「あたらしい川崎」を

これからの100年を担う若者たちの取組を大切にしてきた川崎の100周年。主体的に100周年記念事業を盛り上げてくれた若者たちによる

未来のクリエイターを目指し、美術やデザインに関する知識や技術を学んでいるのが、川崎総合科学高等学校デザイン科(幸区)に通う生徒たち。今回、有志の6人が、かわさきフェアの富士見公園会場に続く陸橋「川崎ハローブリッジ」の手すり下に描かれた「パラペット装飾」づくりやまちなかに登場した「ウォールアート」の制作に携わりました。「もともとは川崎が100周年を迎えることも知らなかった」。そんな中でも、「せっかく頂いたチャンス」と手を挙げ、まちへの思いを形にしました。普段は限られた場所や空間で作業することが多いメンバー。「ウォールアート」の制作では、実際に現場に出かけ、筆を手にしたリ、「パラペット装飾」づくりでは、2次元上のデータが、「手にとれる形」として作品になったりと、いつもとは違うスタイルに心を躍らせたそうです。福谷藍さん(3年)は「人と関わっていくことっていいなと思った。今度は自分が川崎の人をつなぐイベントの企画者として、ポスターのデザインなどに携わりたい」と目を輝かせます。

卒業を控える山中琴絵さん(3年)は「私たちは偶然節目のタイミングで高校生だったので携われたけど、これからのデザイン科にも素敵なお技術やアイデアをもっている子たちがいる。101年目でも102年目でも、後輩、そして若者が輝ける場があればうれしい」と、未来への期待をのぞかせました。

アートで川崎と未来、彩る (川崎総合科学高等学校)



川崎駅西口大宮地区で行われたウォールアート制作

建設工学科の生徒たちは、かわさきフェア期間中に市役所通りに並んだ憩いのスペースを制作。
「実際に使用した方の声を聞いたことでの学びや、一つの大きな作品をみんなで協力して作りあげる喜びを通じて得た人とのつながりを、これらも大切にしていきたい」と笑顔で語ってくれました。

憩いのスペースの一部



「パラペット装飾」とデザイン科の生徒たち

若い力で紡いでいく

それぞれの強みを生かしながら、自由かつ柔軟な発想による多彩なアクションでアクションを振り返りながら、これから歩んでいく未来を語ってもらいました。

生まれたつながり、次の世代へ (多摩区ソーシャルデザインセンター)



実行委員会第2回総会の発表

2023年3月に行われた市制100周年記念事業実行委員会第2回総会で、川崎市への思いや企画への決意を語ってくれたのは、地域活動のコーディネートなどに取り組む多摩区ソーシャルデザインセンターの若者たち。翌月のプレ事業「登戸・たまがわマルシェ」では、小学生から集めたアサガオの種を来場者に配布し、緑化を通じて市民の輪を広げました。

2024年のマルシェでは、クラウドファンディングで資金を集め、移動動物園を初めて誘致。さまざまな動物に触れ合う機会を作り、多くの来場者を楽しませました。蒲菜南さん(21)は「多くのつながりを生むことができました。私たち自身も事業を通じ、多くのつながりが生まれ、充実感が得られました」と振り返ります。全国都市緑化かわさきフェアが開幕すると、周知や案内を行うブースを運営し、来場者を出迎える任務を遂行。原島実来さん(21)は「何かやりたいと思ったとき「まちのあの人の協力してもらおう」と多くの人の顔が自然と浮かんだ。つながりが、次のつながりに結びついた」と笑顔を見せます。「挑戦を応援してくれて、協力的なのが川崎の良さ。これからたくさんの人たちと関わりながら、川崎がもっとよりよいまちになるようにチャレンジしていきたい」と、若者たちは未来への思いを語ってくれました。



クラファンで誘致した移動動物園

そこかしこで生まれた若者たちの多彩なアクションの一部を紹介

01 川崎Quest 映像製作プロジェクト (専修大学)



プロジェクトロゴ

専修大学文学部ジャーナリズム学科(多摩区)の学生が、100周年の「15のActionテーマ」を基に、川崎の良いところ、未来ビジョンを学びながら、川崎の魅力紹介番組の企画・撮影・編集を手掛け、YouTubeで公開しました。

Youtube動画



02 市制100周年オリジナルグッズ制作 (大師中学校)



大師中学校美術部(川崎区)の皆さんが、学年を横断したチームで100周年をテーマとしたグッズの制作に取り組み、全校投票で選ばれたデザインがあらわれたTシャツやタオルなどのグッズが完成しました。

03 記念事業を読み解くポスター制作 (麻生区在住の小学5年生)

シティプロモーション推進室職員にヒアリングして、記念事業の計画をまとめたポスターを夏休みの自由研究で制作しました。



04 市制100周年をテーマに市長取材 (川崎区在住の高校1年生)



100周年をテーマに市長取材を行い、県高等学校総合文化祭放送情報部門大会でオリジナル原稿を発表し、第2位に輝きました。続く関東地区高校放送コンクールアナウンス部門では、最優秀賞を受賞しました。